

平成 29 年 8 月 29 日

保護者の皆様

「学びに向かう力」の育成をめざした学習活動について

枚方市立招提北中学校
校長 山本 俊夫

残暑の候、保護者の皆様におかれましては、ますますご健勝のことと存じます。日ごろは本校の教育活動に対するご理解・ご協力、誠にありがとうございます。

さて、次期学習指導要領が示され、今の子どもたちが大人になった時、どのような力が求められるのかということが国レベルで示されました。これまでの、いわゆる「学力」は、「どれだけの知識を覚えられるか、覚えられたか」が問われていました。しかしながら、それらはAI（人工知能）やスマートフォンなどに取って代わり、これからは「得られた知識・技能をどう活用できるか」「多様な意見を聞く中で、自分の考えをどうつくっていくのか」「社会の中でうまくコミュニケーション活動ができるのか」など、人間にしかできないような能力が問われる時代が来る（来ている）と予想されています。

これらの「力」は、これまでのような「講義型」の授業形式だけでは育成することはできません。これらの「力」を育成するために「聴いて 考えて つなげる」学習活動を展開していくことが求められています。つまり、「人の話を聴き、聴いたことを基にして考え、それをさらに自分の中で再構成して意味づけをした後、他者に自分の考えを伝える」という過程を通して、自分の考えを深めていくような学習活動を推進していくことが求められているのです。

そこで1年生では、2学期より「コの字型」の机配置を基本形とし、授業内容によって「グループ活動」や「講義形式（従来の全員前を向く形式）」を取り入れた学習形態を実施していくことにいたしました。

先進校での実践では、「コの字型」の机配置によって「他の人の発表が聞きやすい」「グループでの話し合いがしやすい」「話し合う活動を通じて自分の考えを深めることができる」と考えている生徒が多くなったという結果が出ています。ただ、当初は「周囲の様子が気になり、落ち着いて授業が受けられない」「顔が横向きになるので板書をするのに負担がかかる」など、危惧される部分もあることも事実です。これら危惧される部分につきましては、その状況に応じて学習形態を変えることで対応していきたいと考えております。

本校においては初めての取組みとなります。これまで私たちも、多くの研究会への参加、先進校視察、学習会を行ってきました。その結果として、今の招提北中学校の生徒たちに「確かな力」をつけさせるための方策として、様々な学習形態を取り入れた学習活動を実践していくことが必要であると考えました。

これもすべて、招提北中学校の生徒たちが、「わかった」「学ぶことが楽しい」「もっと学びたい」と夢中になるような教育活動を展開し、将来にわたって必要とされる「学びに向かう力」を育成していきたいとの思いからであるにご理解いただき、ご協力よろしくお願い申し上げます。